

日本建築学会の津波報告 は僅かに1ページ!

新潟地震災害調査報告

昭和39年12月

日本建築学会

2節 津波

気象庁および東大地震研究所で行なわれた津波調査の結果を要約すると、

- (1) 波高の高かったのは、鼠ヶ関・岩船間で約4mと観測され、その南と北では急激に減少し、秋田付近および直江津付近では1m余りとなっている。(図1.11 参照)
- (2) 津浪の最高波は、波高の高い鼠ヶ関・岩船間では才1波で地震から10～20分後に、それ以外の地域では才3波あるいはそれ以後の波で、地震から1時間以上たつてあらわれている。(図1.11 参照)
- (3) 津波による家屋被害としては、両津、新潟、岩船、船川で相当数の浸水家屋を出している。(被害統計の項参照) なお参考までに、津波の伝播図および直江津港における津波記録を図1.12、図1.13に示す。

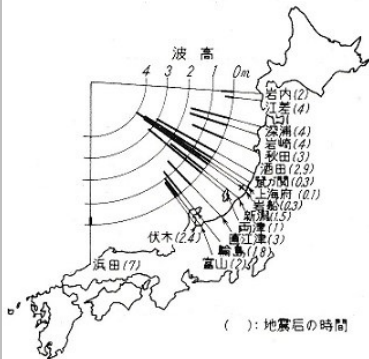


図 1.11

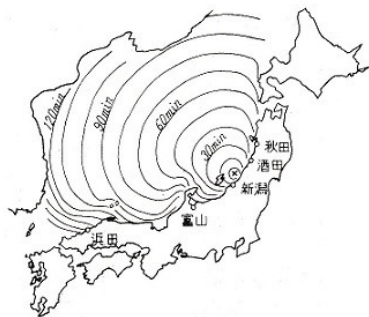


図 1.12

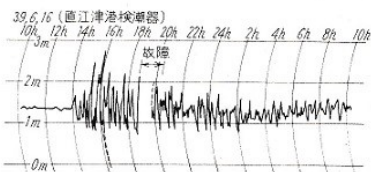
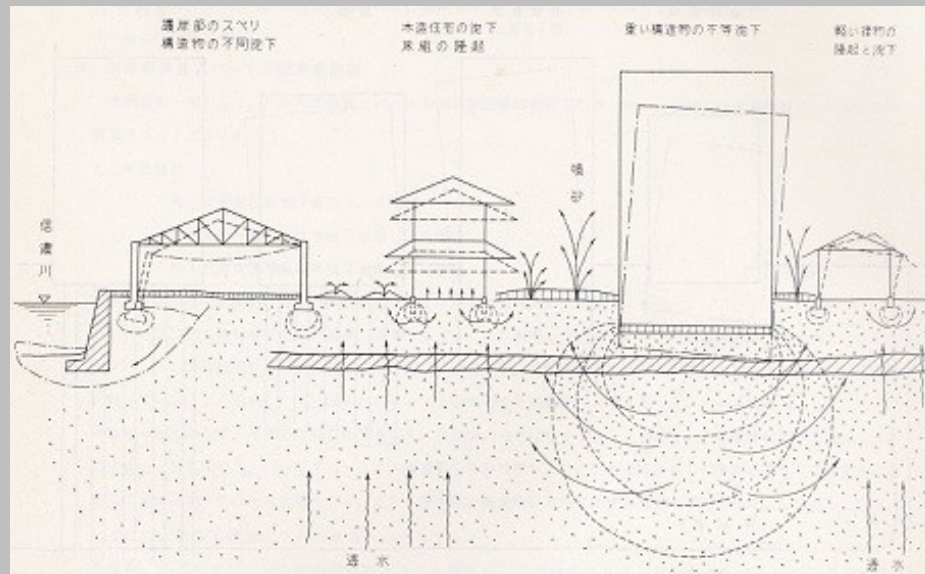


図 1.13



新潟市川岸町アパートの被害 [1]

日本建築学会調査報告の最終部分に掲載されている「建築物の被害の原因についての考察」に見られる戸惑い(上図) [3]



各地の被害状況(6月18日午後10時現在) [3]

	新潟	山形	秋田	福島	群馬	長野	計
死者	12	9	4	0	0	0	25
行方不明	11	0	0	0	0	0	11
負傷者	267	79	16	11	1	2	376
家屋全壊	729	347	3	2	0	0	1,081
同半壊	6,718	723	19	10	0	0	7,470
同全半壊	170	0	0	0	0	0	170
非住家被害	1,598	1,564	11	36	4	3	3,216
道路損壊	702	185	15	11	1	0	914
橋損壊	33	4	3	0	0	0	40
被災世帯数	18,658	1,086	47	12	0	0	19,803

日本建築学会にとっては津波災害よりも
軟弱地盤に起因する建物被害の方が余程
ショックだったのでは?